

2020. 10. 18 第三主日あかし礼拝
詩篇 30:1-12 「病から見えるもの」

聖書

- 1 主よ 私はあなたをあげめます。あなたは私を引き上げ私の敵が喜ばないようにされたからです。
- 2 わが神 主よ 私が叫び求めると あなたは私を癒やしてくださいました。
- 3 主よ あなたは私のたましいをよみから引き上げ 私を生かしてくださいました。私が穴に下って行かないように。
- 4 主にある敬虔な者たちよ 主をほめ歌え。主の聖なる御名に感謝せよ。
- 5 まことに 御怒りは束の間 いのちは恩寵のうちにある。夕暮れには涙が宿っても 朝明けには喜びの叫びがある。
- 6 私は平安のうちに言った。「私は決して揺るがされない」と。
- 7 主よ あなたはご恩寵のうちに 私を私の山に堅く立たせてくださいました。あなたが御顔を隠されると 私はおじ惑いました。
- 8 主よ あなたを私は呼び求めます。私の主にあわれみを乞います。
- 9 私が墓に下っても 私の血に何の益があるのでしょうか。ちりがあなたをほめたたえるのでしょうか。あなたのまことを告げるのでしょうか。
- 10 聞いてください 主よ。私をあわれんでください 主よ。私の助けとなってください。
- 11 あなたは私のために 嘆きを踊りに変えてくださいました。私の粗布を解き 喜びをまとわせてくださいました。
- 12 私のたましいが あなたをほめ歌い 押し黙ることがないために。私の神
主よ 私はとこしえまでも あなたに感謝します。

はじめに

今日は詩篇 30 篇からみことばを味わってみたいと思います。「You raise me up」（ユー・レイズ・ミー・アップ）という曲があります。今から十数年前ですが、日本ではケルティック・ウーマンというグループのカバー曲で知ら

れるようになりました。直訳すると、「あなたは私を起き上がらせてくれる」という意味です。和訳の一部を紹介します。「気持ち沈み 心が疲れたら 困難に見舞われ 重荷を背負ったら 静寂の中で待つ あなたが現れ 隣に座ってくれるまで あなたが支えてくれるから 高い山も登れる あなたが支えてくれるから 荒れ狂う海も歩ける（荒れ狂う海も…） 僕は強くなれる（強くなれる…） あなたを信じていれば 今以上の自分になれる」。

この曲はいわゆるラブソングであって聖書を背景にして作られた曲ではありませんが、歌詞の奥深くには困難な中にも支えてくださる神さまがいるように思えてなりません。今朝取り上げる詩篇 30 篇はまさにこの曲の通りで、苦しみや困難の中にいる者を励まし、立ち上がらせてくれる詩です。

1. 山あり谷あり

この詩篇には対となることばが出てきます。直接的な表現ではなくても次のようなものを見ることが出来ます。「病気と健康」「滅びといのち」「御怒りと恩寵（愛顧）」「夕暮れと朝明け」「涙と喜び」「嘆きと踊り」「沈黙と賛美」「順境と逆境」。これらのことばは、私たちの人生の一場面を表すにふさわしいもので、人生山あり谷ありとはよく言ったものだと思います。

人生は波のように山があれば谷があります。いつも山ばかりではありませんし、反対に谷ばかりでもありません。人によって山や谷の高さ深さは違いますし、長さも違いますが、ずっと山や谷の状態が続くものではありません。このことは私たちへの戒めにもなれば、励ましにもなります。今山を歩んでいる人は傲慢にならないように気を付けなければいけませんし、今谷を歩んでいる人はふてくされて諦めてはいけません。必ず起き上がれるときが来ます。特に今困難な中にいる方には 1-3 節のみことばをお送りします。「主よ 私はあなたをあがめます。あなたは私を引き上げ私の敵が喜ばないようにされたからです。わが神 主よ 私が叫び求めると あなたは私を癒やしてくださいました。主よ あなたは私のたましいをよみから引き上げ 私を生かしてくださいました。私が穴に下って行かないように」。どん底にあっても決

して諦めないで、主が引き上げてくださるまで主を叫び求めましょう。

2. 健康なときも病のときも

この詩を書いたのはダビデです。詩の背景ははっきりとはわかりませんが、「あなたは私を癒してくださいました」とか「わたしのたましいをよみ（死）から引き上げ」という表現から、おそらく病の中にあっただのではないかとされています。死を覚悟するほどの病は、私たちから生きる力を奪ってしまいます。普段健康なときは、何があっても平気だと豪語していても、いったん大きな病を背負うと深く落胆してしまうものです。

ダビデもこの罠に陥ってしまいました。6,7 節で「私は平安のうちに言った。『私は決して揺るがされない』と。主よ あなたはご恩寵のうちに 私を私の山に堅く立たせてくださいました。あなたが御顔を隠されると 私はおじ惑いました」と言っていますが、自分が健康なときには「私は決して揺るがされない」（6 節）と傲慢とも取れる歩みをしていたことを証しています。ちなみに6 節の新改訳第三版は「私が栄えたときに、私はこう言った」と訳しており、新共同訳は「平穏なときには、申しました」と訳していますから、人は健康で順調なときは「私は決して揺るがされない」と威勢の良いことばを発してしまう者であることがわかります。しかし、いったん健康が奪われると、すなわち神さまが御顔を隠されると、「おじ惑い」うろたえてしまうのです。このように詩篇には人の心の機微が見事に表わされていますから、多くの人に親しまれるのでしょう。

神さまは私たちの人生に深く関わっておられます。夕暮れには涙があっても朝明けには喜びがあるように、また嘆きを踊りに変えてくださるように、確かに恵みによって私たちを引き上げ、生かしてくださいます。そのような時は、素直に「あなたはご恩寵のうちに 私を私の山に堅く立たせてくださいました」と証できるでしょう。しかし、脆くもその状況が崩れると「私は

おじ惑いました」と弱さを露呈してしまうのです。目の前の状況に一喜一憂するのが私たちの正直な姿なのではないでしょうか。神さまはそのような私たちと共に歩んでくださる方で、少し物事がうまくいき傲慢になると「御顔を隠され」、苦しくて溺れそうになると「癒し」「引き上げて」くださるのです。このようにして神さまはいつも私たちの側にいて、深く関わってくださっているのです。

3. ともにおられる主

神さまが私たちの人生に深く関わってくださっているとすれば、私たちはその中でどのように答えたらよいのでしょうか。それは謙遜と感謝です。人は生かされている者なのに、「私は決して揺るがされない」とまるで自分の力で生きているかのように思ってしまう。へりくだって生かされていることを感謝しなければいけないのではないのでしょうか。どんなときもへりくだって生かされていることを知る者でありたいと願います。

私たちを生かしてくださるのは、いのちの源を司っておられる神さまです。ダビデは病の回復を感謝して「あなたは私のために 嘆きを踊りに変えてくださいました。私の粗布を解き 喜びをまとわせてくださいました」と歌いました。病に限らず、私たちが抱える様々な問題や課題は、必ず神さまによって喜びに導かれると信じています。それは、私たちが神さまに感謝するようになり、人生に深く関わってくださった神さまのことを人々に証するためです。「私のたましいが あなたをほめ歌い 押し黙ることがないために。私の神主よ 私はどこしえまでも あなたに感謝します」（12節）。

毎月第三主日はあかし礼拝としてささげています。イエスさまとの出会いやイエスさまが私の人生をどのように変えてくださったのかを証していただく礼拝です。今日の礼拝の中で証してくださった姉妹のことばは真実で、イエスさまはどんなときにも共にいて、守り助けてくださるお方です。イエスさまと共に歩む人生の幸いを一人でも多くの方々と分かち合いたいと願って

います。

まとめ

健康なときも病めるときも神さまは私たちと共におられます。今困難中におられる方や辛い中におられる方には、滅びからいのちに、涙から喜びに、嘆きから踊りに、沈黙から賛美に変えてくださる神さまが共におられることを知って頂きたいと願わされます。そのためにすでに神さまとの出会いを経験されたクリスチャンの方々は、自分の身になされた神さまの恵みの業を感謝と喜びをもってお伝えしましょう。「私の神 主よ 私はとこしえまでもあなたに感謝します」(12節)と告白して歩んで行きましょう。